

ArcGIS Maps for SharePoint のインストールおよび構成ガイド



目次

基本操作

ArcGIS Maps for SharePoint の新機能	3
サポートされている環境	4

コンピューター A とコンピューター B に

ArcGIS Maps for SharePoint のインストール	7
ArcGIS Maps for SharePoint のアップグレード	10
変更または削除	11

設定

ArcGIS の認証	13
ArcGIS Maps for SharePoint の構成	14
エンタープライズ ログインの構成	20

リファレンス

よくあるご質問 (FAQ)	21
Esri User Experience Improvement プログラム	25
Copyright information	26

ArcGIS Maps for SharePoint の新機能

ArcGIS Maps for SharePoint の機能に関するご意見をお待ちしています。お客様のご意見を [ArcGIS Ideas](#) サイトにお寄せください。

ArcGIS Maps for SharePoint 4.2 には、次の更新および拡張が含まれています。

- アプリの名前が ArcGIS Maps for SharePoint に変更されました。
- SharePoint Server 2016 のサポートが追加されました。
- ArcGIS Maps for SharePoint Online は、ArcGIS Maps アプリ パーツと ArcGIS Maps Locate ワークフローの両方を含む単一のアプリです。
- ArcGIS Maps for SharePoint Online は現在、サブサイトでサポートされています。
- 強化されたセキュリティ ソリューションにより、SharePoint 管理者は ArcGIS の認証情報を安全に保存する方法を選択できます。
- ArcGIS Enterprise Server 10.5 のサポートが追加されました。
- ベクター タイル ベースマップのサポートが追加されました。
- サブサイトやドキュメント ライブラリのサブフォルダーから、SharePoint のリストとドキュメントを ArcGIS Maps アプリに追加できます。
- ArcGIS Maps for SharePoint は、パブリックの SharePoint サイト上で匿名アクセス可能なマップ Web パーツをサポートしています。
- SharePoint リストをマップに追加する操作が改善されました。
- アプリの構成および ArcGIS Maps Locate ワークフローの操作が改善されました。
- 各種不具合の修正と改善

サポートされている環境


ArcGIS Maps for SharePoint は、Microsoft SharePoint のファーム ソリューション (wsp) として配置されます。

ArcGIS Maps for SharePoint が適切に動作するために、Esri は Microsoft SharePoint の運用構成を想定しています。

ArcGIS Maps for SharePoint は、以下のものとともに使用できるようにサポートされています。

- Microsoft SharePoint Server 2010
- Microsoft SharePoint Foundation 2010
- Microsoft SharePoint Server 2013
- Microsoft SharePoint Foundation 2013
- Microsoft SharePoint Server 2016

Esri は、Microsoft SharePoint によって認定された、またはサポートされているソフトウェア環境でのみ ArcGIS Maps for SharePoint をテストしています。SharePoint がサポートされているすべての環境でテストまたは認定が行われているわけではありません。詳細については、「[Esri がサポートする環境ポリシー](#)」をご参照ください。

 **注意:** ArcGIS Maps for SharePoint は、SharePoint 2013 で SharePoint 2010 テンプレートをサポートしていません。

システム要件

詳細については、Microsoft SharePoint のシステム要件をご参照ください。

- [ハードウェア要件およびソフトウェア要件 \(SharePoint Server 2010\)](#)
- [ハードウェア要件およびソフトウェア要件 \(SharePoint 2013\)](#)
- [ハードウェア要件およびソフトウェア要件 \(SharePoint Server 2016\)](#)

ArcGIS

ArcGIS Maps for SharePoint を使用するには、ArcGIS Online の組織サイトのサブスクリプション、またはオンプレミスでの ArcGIS Enterprise の配置が必要です。ArcGIS 管理者によって、プラットフォームへのアクセスに使用される認証方式が正しく構成されていることが前提です。

ArcGIS Maps for SharePoint 4.2 は、次の ArcGIS バージョンをサポートしています。

- ArcGIS Online - 現在のバージョン
- Portal for ArcGIS— 10.2 から 10.4.1 まで
- ArcGIS Enterprise - 10.5

必要なソフトウェア

ArcGIS Maps for SharePoint を配置するには、以下の前提条件を満たしている必要があります。

- Microsoft SharePoint Server または Foundation 2010/2013、または SharePoint Server 2016 が正しくインストールされ、構成されていること。
- ArcGIS Maps for SharePoint がインストールされている SharePoint サーバー上に以下の MIME タイプのセットが存在している必要があります。
 - .svg image/svg+xml
- Secure Store Service - インストール時に、ArcGIS Maps for SharePoint はデフォルトで ArcGIS の認証情報のセキュリティ保護に Secure Store Service (SSS) を使用し、自動的にターゲット アプリケーションを生成します。これは、推奨設定です。SSS を使用しない場合、またはインストール時に SSS が使用できない場合は、インストール後に暗号化キーを手動で生成する必要があります。詳細については、「[ArcGIS Maps for SharePoint のインストール](#)」をご参照ください。インストール時に SSS を使用することを選択する場合は、Secure Store Service が開始していて、サービス自体が正しく構成されていることを確認してください。
- Secure Store Service にアクセスして新しいキーを生成するには、以下の手順に従います。
 - **[サーバーの全体管理]** ホーム ページの **[アプリケーション構成の管理]** セクションで、**[サービス アプリケーションの管理]** をクリックします。
 - **[Secure Store Service]** リンクをクリックします。
 - **[新しいキーの生成]** をクリックします。
詳細については、「[SharePoint 2013 で Secure Store Service を構成する](#)」、「[Secure Store Service を構成する \(SharePoint Server 2010\)](#)」、または「[SharePoint Server 2016 で Secure Store Service を構成する](#)」をご参照ください。
 - **[サーバーの全体管理]** を終了します。
- ArcGIS Enterprise - ArcGIS Enterprise で ArcGIS Maps Locate ワークフローを正常に実行するには、[ジオコーダー サービスを構成](#)します。
- SharePoint 2010 - ArcGIS Maps Locate 2010 で SharePoint ワークフローを正常に実行するには、ArcGIS Online または ArcGIS Enterprise インスタンスから[証明書](#)をダウンロードして SharePoint にインポートします。

オペレーティング システム

ArcGIS Maps for SharePoint は、以下のオペレーティング システムで動作する SharePoint 2010 および SharePoint 2013 でサポートされています。現在サポートされているオペレーティング システムのバージョンを判定するには、Microsoft SharePoint でサポートされている環境についての情報をご参照ください。

- Windows Server 2012
- Windows Server 2012 R2
- Windows Server 2008 R2 SP1
- Windows Server 2008 R2

サポートされている言語

ArcGIS Maps for SharePoint は

アラビア語、中国語 (簡体字)、中国語 (繁体字: 香港)、中国語 (繁体字: 台湾)、チェコ語、デンマーク語、オランダ語、英語、エストニア語、フィンランド語、フランス語、ドイツ語、ギリシア語、ヘブライ語、インドネシア語、イタリア語、日本語、韓国語、ラトビア語、リトアニア語、ノルウェー語、ポーランド語、ポルトガル (ブラジル) 語、ポルトガル (ポルトガル) 語、ルーマニア語、ロシア語、スペイン語、スウェーデン語、タイ語、トルコ語、およびベトナム語でサポートされています。

Windows 版アプリで使用される言語は、お使いのオペレーティング システムの言語設定によって決まります。サポートされていない言語設定を使用している場合、アプリは英語を使用します。

ヘルプは次の言語で表示できます。

アラビア語、中国語 (簡体字)、中国語 (繁体字: 香港)、中国語 (繁体字: 台湾)、英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、日本語、韓国語、ポルトガル (ブラジル) 語、ルーマニア語、ロシア語、スペイン語。

Web ブラウザー


以下のブラウザーがサポートされています。

ブラウザー名	SharePoint 2010	SharePoint 2013	SharePoint 2016
Internet Explorer 11	完全	全体	全体
Internet Explorer 10	完全	全体	全体
Google Chrome*	完全	全体	全体
Mozilla Firefox*	完全	全体	全体

*最新バージョン

ArcGIS Maps for SharePoint のインストール

ArcGIS Maps for SharePoint に付属する [セットアッププログラム](#) を使用すると、SharePoint に簡単に配置することができます。

-  **注意:**
- ArcGIS Maps for SharePoint をインストールするには、SharePoint への管理アクセスが必要です。エラーを避けるため、昇格された権限を使用してインストーラーを実行します。
 - 以前にベータ版の ArcGIS Maps for SharePoint がインストールされていたサイトへのインストールは推奨されません。ArcGIS Maps for SharePoint をインストールする前に、ベータ ソフトウェアを含むすべてのコンポーネントを無効化または削除するか、新しいサイトを作成してください。

付属するファイル

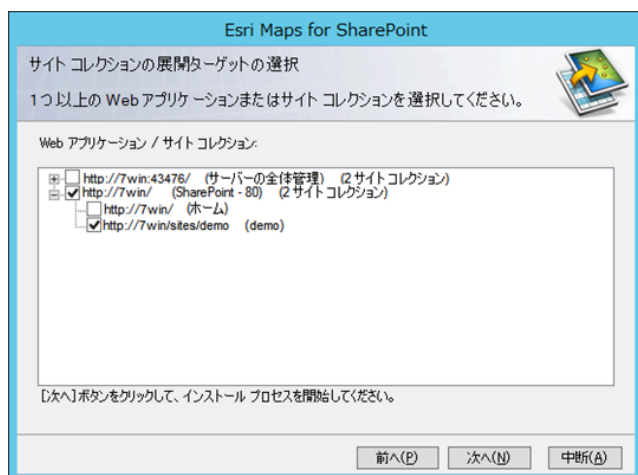
オンプレミスの ArcGIS Maps for SharePoint (SharePoint 2010 または 2016) インストールには、次のファイルが含まれています。


- Setup.exe - インストール プログラム。ArcGIS Maps for SharePoint を SharePoint ファーム内の Web アプリケーションやサイトコレクションに配置することができます。
- ESRI.ArcGIS.Mapping.SharePoint.wsp - SharePoint のフィーチャ、リソース、および構成ファイルを含む ArcGIS Maps for SharePoint ソリューション パッケージ。
- EnableAnonymousAccess.ps1 - ArcGIS Maps アプリ内に表示される SharePoint リストへの匿名アクセスを可能にする PowerShell スクリプト。
- ドキュメント - ArcGIS Maps for SharePoint には、アプリのインストール、構成、基本操作に役立つさまざまなドキュメントが付属しています。また、言語パックを配置するためのガイドと使用許諾契約書も含まれています。
- 言語リソースファイル - サポートされる言語の設定リソース。英語以外の言語で ArcGIS Maps for SharePoint をインストールするには、まず英語のソフトウェアをインストールしてから、適切な言語パックをダウンロードしてインストールする必要があります。

オンプレミスでの ArcGIS Maps for SharePoint のインストールと配置

ArcGIS Maps for SharePoint を配置するには、次の手順に従います。

1. ArcGIS Maps for SharePoint のインストール用 ZIP ファイルをダウンロードし、システム上の SharePoint がインストールされている場所にコンテンツを抽出します。
2. Setup.exe ファイルを右クリックし、**[管理者として実行]** を選択してインストーラーを起動します。インストールが確実に成功するように、インストーラーによって一連のチェックが実行されます。チェックに失敗すると、インストーラーがエラーに関する情報を表示します。
3. チェックが正常に完了したら、**[次へ]** をクリックします。
Secure Store Service が開始されていないというメッセージが表示された場合は、SharePoint Server 上でこのサービスを開始します (SharePoint Foundation には適用されません)。詳細については、「**サポート環境**」をご参照ください。
4. 使用許諾契約書 (EULA) を読みます。EULA の条項に同意する場合は、チェックボックスをオンにして、**[次へ]** をクリックします。
5. ArcGIS Maps for SharePoint を有効にする Web アプリケーションまたはサイト コレクションを選択します。**[Web アプリケーション / サイト コレクション]** ツリーでは、最上位ノードはそれぞれ SharePoint Web アプリケーションを表し、子ノードはそれぞれサイト コレクションを表しています。以下の例では、http://7win/sites/demo[x4] にあるサイト コレクションが ArcGIS Maps for SharePoint を展開するターゲットになっています。ターゲットの Web アプリケーションとサイト コレクションを選択したら、**[次へ]** をクリックします。



 **注意:** Web アプリケーションをターゲットにすると、その Web アプリケーション内のすべてのサイト コレクションで ArcGIS Maps for SharePoint の機能が使用可能になります。したがって、このインストーラーのページでチェックボックスがオンになっている Web アプリケーション内のサイト コレクションでは、ArcGIS Maps for SharePoint の機能が使用可能になりますが、そのサイト コレクションにチェックが入っていない場合は、機能はアクティブにはなりません。

6. **[次へ]** をクリックして続行します。
7. Esri User Experience Improvement プログラムに参加するには、**[ソフトウェアの改善のために、Esri が情報を収集することを許可する]** チェックボックスをオンにします。
8. **[次へ]** をクリックします。
操作のログが表示されます。
9. **[閉じる]** をクリックして、セットアップ プログラムを終了します。

インストールが完了したら、ArcGIS Maps for SharePoint を **構成** します。


PowerShell を使用したインストール

ArcGIS Maps for SharePoint を手動でインストールするには以下の PowerShell コマンドを使用します。必ず <プレースホルダー> をシステムの情報に置き換えてください。

```
Add-SPSolution
-LiteralPath C:\Software\ESRI.ArcGIS.Mapping.SharePoint.wsp
Install-SPSolution ESRI.ArcGIS.Mapping.SharePoint.wsp
-WebApplication http://<web application name>
-GACDeployment
Start-Sleep 15
Enable-SPFeature
-identity "b432665a-07a6-4cc7-a687-3e1e03e92b9f"
-URL http://<web application name>/sites/<MySiteCollectionName>
```

ArcGIS Maps for SharePoint のアップグレード

ArcGIS Maps for SharePoint に付属する Setup.exe プログラムを使用して、最新バージョンにアップグレードできます。アップグレードするには、次の手順に従います。

 **注意:** 新しいバージョンへアップグレードする際、前のバージョンの ArcGIS Maps for SharePoint をアンインストールする必要はありません。

アップグレード

1. **Setup.exe** ファイルをダブルクリックして開きます。ArcGIS Maps for SharePoint セットアップ ウィザードの **[次へ]** をクリックします。
インストールが確実に成功するように、インストーラーによって一連のチェックが実行されます。チェックに失敗すると、インストーラーがエラーに関する情報を表示します。
2. チェックが正常に完了したら、**[次へ]** をクリックします。
3. **[アップグレード]** オプションを選択して、**[次へ]** をクリックします。
インストーラーによって、選択したサイト コレクションに ArcGIS Maps for SharePoint が配置され、アクティブになります。
4. 操作が完了したら、**[次へ]** をクリックして、インストール ログを表示します。
5. **[閉じる]** をクリックして、セットアップ ウィザードを閉じます。

PowerShell を使用したアップグレード

次の PowerShell コマンドを使用すると、前のバージョンの ArcGIS Maps for SharePoint を削除して、最新バージョンをインストールできます。必ずプレースホルダーをシステムの情報と差し替えてください。

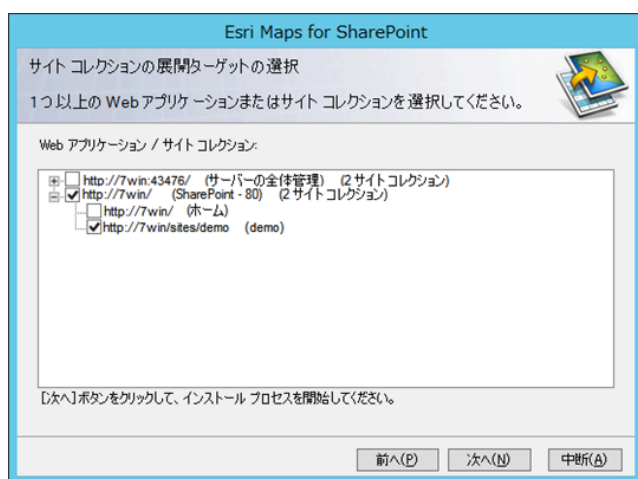
```
Disable-SPFeature
-identity "b432665a-07a6-4cc7-a687-3e1e03e92b9f"
-URL http://<web application name>/sites/<MySiteCollectionName>
Uninstall-SPSolution
-Identity ESRI.ArcGIS.Mapping.SharePoint.wsp
-WebApplication http://<web application name>
Start-Sleep 15
Remove-SPSolution
-Identity ESRI.ArcGIS.Mapping.SharePoint.wsp
WebContentInstaller.ps1 -uninstall
Add-SPSolution
-LiteralPath C:\Software\ESRI.ArcGIS.Mapping.SharePoint.wsp
Net stop SPTimerV4
Net start SPTimerV4
Install-SPSolution ESRI.ArcGIS.Mapping.SharePoint.wsp
-WebApplication http://<web application name> -GACDeployment
Start-Sleep 15
Enable-SPFeature
-identity "b432665a-07a6-4cc7-a687-3e1e03e92b9f"
-URL http://<web application name>/sites/<MySiteCollectionName>
```

変更または削除

変更

ArcGIS Maps for SharePoint に付属している Setup.exe プログラムを使用して、ArcGIS Maps for SharePoint の機能を格納するサイトや Web アプリケーションを簡単に変更できます。インストールを変更するには、次の手順に従います。

1. Setup.exe ファイルを右クリックし、**[管理者として実行]** をクリックしてインストーラーを起動します。インストーラーによるチェックが実行され、ArcGIS Maps for SharePoint がインストール済みかどうかと、インストーラー機能が実行可能であることが確認されます。チェックに失敗すると、インストーラーがエラーに関する情報を表示します。
2. チェックが正常に完了したら、**[次へ]** をクリックします。
3. **[変更]** オプションを選択して、**[次へ]** をクリックします。
4. ArcGIS Maps for SharePoint を有効または無効にする Web アプリケーションまたはサイト コレクションを選択します。[Web アプリケーション / サイト コレクション] ツリーでは、最上位ノードはそれぞれ SharePoint Web アプリケーションを表し、子ノードはそれぞれサイト コレクションを表しています。以下のスクリーン キャプチャでは、ArcGIS Maps for SharePoint が、<http://7win/sites/demo> にあるサイト コレクションに配置するターゲットになっています。



Web アプリケーションをターゲットにすると、その Web アプリケーション内のすべてのサイト コレクションで ArcGIS Maps for SharePoint が使用可能になります。

5. ターゲットの Web アプリケーションとサイト コレクションを選択したら、**[次へ]** をクリックします。インストーラーによって、選択したサイト コレクションに ArcGIS Maps for SharePoint が配置され、アクティブになります。オンになっていないサイト コレクションでは ArcGIS Maps for SharePoint が非アクティブになります。
6. 操作が完了したら、**[次へ]** をクリックして操作ログを表示するか、**[閉じる]** をクリックしてセットアップ プログラムを閉じます。

削除

ArcGIS Maps for SharePoint を SharePoint ファームから削除するには、この製品で提供される Setup.exe プログラムを使用します。ArcGIS Maps for SharePoint をアンインストールするには、次の手順に従います。

1. Setup.exe ファイルを右クリックし、**[管理者として実行]** をクリックしてインストーラーを起動します。インストーラー機能が確実に実行可能であるように、インストーラーによるチェックが実行され、ArcGIS Maps for SharePoint がインストール済みかどうかを確認されます。チェックに失敗すると、インストーラーがエラーに関する情報を表示します。
2. チェックが正常に完了したら、**[次へ]** をクリックします。**[変更または削除]** ダイアログ ボックスが表示されます。
3. **[削除]** オプションを選択して、**[次へ]** をクリックします。ArcGIS Maps for SharePoint がすべてのサイト コレクションから消去され、SharePoint ファームから削除されます。
4. 操作が完了したら、**[次へ]** をクリックして操作ログを表示するか、**[閉じる]** をクリックしてセットアップ プログラムを閉じます。

PowerShell を使用したアンインストール

ArcGIS Maps for SharePoint をアンインストールするには以下の PowerShell コマンドを使用します。必ずプレースホルダーをシステムの情報と差し替えてください。

```
Disable-SPFeature  
-identity "d432665a-07a6-4cc7-a687-3e1e03e92b9f"  
-URL http://<web application name>/sites/<MySiteCollectionName>  
Uninstall-SPSolution  
-Identity ESRI.ArcGIS.Mapping.SharePoint.wsp  
-WebApplication http://<web application name>  
Start-Sleep 15  
Remove-SPSolution  
-Identity ESRI.ArcGIS.Mapping.SharePoint.wsp
```

ArcGIS の認証

ArcGIS Maps for SharePoint では、ArcGIS Online 組織サイトまたは ArcGIS Enterprise インスタンスを直接操作できます。ユーザーはサインインせずにマップを表示できますが、操作はマップの表示と基本ナビゲーション、およびポップアップに表示されるデータセットの属性の編集に限られます。ArcGIS にサインインすると、ArcGIS Maps for SharePoint からプラットフォームに接続し、マップの機能すべてを使用できます。

ArcGIS Online 組織サイト または ArcGIS Enterprise インスタンスでセキュリティ機能をどのように設定したかによって、サインインに使用される認証方法が決定されます。ArcGIS Maps for SharePoint では、ArcGIS Online ArcGIS Maps for SharePoint または ArcGIS Enterprise でサポートされている認証方法を実装するための手順は必要ありません。アプリの構成の詳細については、「[ArcGIS Maps for SharePoint の構成](#)」をご参照ください。

ArcGIS 認証の詳細とセキュリティ設定を正しく実装する方法については、[ArcGIS Online](#) または [ArcGIS Enterprise](#) に関するドキュメントをご参照ください。

ArcGIS Online


ArcGIS Maps for SharePoint は、ArcGIS Online に接続するために以下の認証方法をサポートしています。

- **組み込みアカウント** - ユーザーは ArcGIS Online の認証情報を入力します。これによって、OAuth 2.0 を介したトークンベース認証が使用されます。
- **エンタープライズ ログイン** - エンタープライズ ログインは、SAML (Security Assertion Markup Language) 2.0 を介してサポートされます。詳細については、「[エンタープライズ ログインの構成](#)」をご参照ください。

ArcGIS Enterprise

ArcGIS Enterprise の認証の詳細については、ArcGIS Enterprise のインストールに付属する管理者ガイドをご参照ください。

- **組み込みアカウント** - ユーザーは ArcGIS Enterprise の認証情報を入力します。これによって、OAuth 2.0 を介したトークンベース認証が使用されます。ArcGIS Enterprise 10.3 以降では、これがデフォルトの認証方法です。詳細については、「[ArcGIS Maps for SharePoint の構成](#)」をご参照ください。
- **エンタープライズ ログイン** - エンタープライズ ログインは、SAML (Security Assertion Markup Language) 2.0 を介してサポートされます。次のエンタープライズ アイデンティティ プロバイダーがサポートされています。統合 Windows 認証 (IWA)、PKI (Public Key Infrastructure)、LDAP (Lightweight Directory Access Protocol)、およびトークンベース認証。詳細については、「[エンタープライズ ログインの構成](#)」をご参照ください。

 **注意:** SAML で構成された ArcGIS Enterprise を使用する場合、組み込みユーザーを使用してアプリの構成にサインインしてから、認証情報を変更して、SAML のユーザー名とパスワードを使用してサインインする必要があります。

ArcGIS Maps for SharePoint では現在、ワークフロー (ArcGIS Maps Connect および ArcGIS Maps Locate ワークフロー) における、ArcGIS Enterprise の IWA/PKI/LDAP 認証をサポートしていません。

ArcGIS Maps for SharePoint の構成

SharePoint サイト コレクション管理者は、ArcGIS Maps for SharePoint の構成を担当します。まず、マップの構成に使用する ArcGIS 認証情報をセキュリティで保護された状態で保存するための暗号化キーを生成します。インストール時に SSS (Secure Store Service) を使用するように設定した場合、この生成は自動的に実行されます。それ以外は、手動でキーを生成する必要があります。次に、ArcGIS Online の組織アカウントまたは ArcGIS Enterprise インスタンスの URL を指定します。最後に、マップの整合チェックに使用する ArcGIS の指定ユーザー アカウントを指定し、ArcGIS Maps for SharePoint ワークフロー (場所検索 および Connect) で消費されるクレジット数を変更します。ここで、Esri User Experience Improvement プログラムのオプションを必要に応じて設定することもできます。

構成時に指定された ArcGIS の指定ユーザー アカウントは、ArcGIS Online または ArcGIS Enterprise でアプリ アイテムの生成に使用されます。このアプリ アイテムは次の目的に使用します。

- ArcGIS Maps Locate ワークフローおよび ArcGIS Location フィールドで使用されるアプリ トークンの生成
- ゲスト ユーザーにマップ Web パーツの表示を許可するアプリ トークンの生成
- アプリ アイテムの ID は、指定ユーザーの OAuth 2.0 認証に使用されます。

ArcGIS の認証情報が設定されると、ユーザーは ArcGIS にサイン インせずにゲストとしてマップを表示できます。ゲスト ユーザーには、マップへの制限付きアクセスが付与されます。パブリックに共有された SharePoint コンテンツ、およびマップに追加されたパブリックに共有された ArcGIS コンテンツを表示する他に、ゲスト ユーザーはマップの移動とズーム、レイヤーのオンとオフ、ポップアップの表示が可能です。ただし、ほとんどの機能は表示のみに制限されます。また、ArcGIS Maps Locate ワークフローでは、パブリックに共有された ジオコーダーおよびパブリックに共有されたフィーチャ レイヤーのみに制限されています。すべての機能を活用してマップを操作するには、指定ユーザー アカウントを使用して ArcGIS にサイン インする必要があります。

アプリの構成の完了後、ユーザーは各自のユーザー認証情報を使用して、指定ユーザーとして ArcGIS Maps Web パーツにサイン インできます。アプリ (走行ルート、インフォグラフィックスなど) が消費したクレジットはすべて、ユーザーのアカウントに課金されます。

重要: ArcGIS Maps for SharePoint は複数の異なる認証方法をサポートしています。以下の手順では、デフォルトの OAuth 2.0 認証を使用してアプリの構成方法を説明します。その他の認証方法については、「[エンタープライズ ログインの構成](#)」をご参照ください。

ArcGIS Maps for SharePoint アプリの構成へのアクセス

前提条件:

[SharePoint の管理] メニューにアクセスしてアプリを構成するには、ArcGIS Maps for SharePoint サイト コレクションの管理者である必要があります。

1. サイトの [サイトの設定] ページに移動します。



2. [ArcGIS Maps for SharePoint の管理] の見出しの下にある [構成設定] をクリックします。

注意: [アプリの構成] ページを開くときに「アクセスが拒否されました。」メッセージが表示された場合、サイト コレクション管理者の権限がありません。サイト コレクション管理者のみが、アプリの構成を実行できます。

暗号化キーの生成

ArcGIS Maps for SharePoint を構成するには、暗号化キーを生成する必要があります。このキーにより、アプリの構成に使用される ArcGIS の認証情報が安全確実に保存されます。

ArcGIS Maps for SharePoint は、デフォルトで Secure Store Service (SSS) を使用して ArcGIS の認証情報を保護します。暗号化キーはターゲット アプリケーション内で生成され、SSS 内に保存されます。そして、すべてのサイト コレクションではこの暗号化キーを使用して ArcGIS の認証情報をセキュリティ保護します。SSS を使用しない場合、インストール後に暗号化キーを手動で生成することができます。セキュリティを強化する上で、SSS を使用することが推奨の設定です。

インストール時に、ID "arcgismapsforsharepoint" を持つターゲット アプリケーションが自動的に作成されます。SharePoint ファーム管理者は必要に応じて他のターゲット アプリケーションも手動で作成できます。

SSS ターゲット アプリケーションの作成 (オプション)

インストール時に、ArcGIS の認証情報のセキュリティ保護に Secure Store Service を使用することを選択した場合、ArcGIS Maps for SharePoint によって Secure Store Service 内に ID "arcgismapsforsharepoint" を持つターゲット アプリケーションが自動的に作成されます。すべてのサイト コレクションはデフォルトでこのターゲット アプリケーションを使用するように構成されます。

場合によっては、SharePoint ファーム管理者が異なるターゲット アプリケーションを手動で作成することもできます。ターゲット アプリケーションを手動で作成する理由として、以下が挙げられます。

- サイト コレクション管理者がセキュリティ向上の目的で専用ターゲット アプリケーションの使用を考えています。
- ArcGIS Maps for SharePoint インストーラーがデフォルトのターゲット アプリケーションを適切に作成できませんでした。

SSS のターゲット アプリケーションを手動で作成するには、以下の手順を実行します。

1. [サーバーの全体管理] ホーム ページの [アプリケーション構成の管理] セクションで、[サービス アプリケーションの管理] をクリックします。
2. [Secure Store Service アプリケーション] をクリックします。
3. [新規] をクリックして新しいターゲット アプリケーションを作成します。

Secure Store のターゲット アプリケーションを新規に作成します。

4. [ターゲット アプリケーション ID] フィールドに文字列を入力します。この値は、ArcGIS Maps for SharePoint の構成時に必須です。
5. 有効な連絡先の電子メール アドレスを入力し、[ターゲット アプリケーションの種類] を [グループ] に設定します。
6. [次へ] をクリックします。
7. デフォルトのユーザー名とパスワードのフィールドを削除して、[フィールドの追加] をクリックします。フィールド名を入力し、フィールド タイプを [キー] に設定します。[マスクする] チェックボックスをオンにし、[次へ] をクリックして続行します。

Secure Store のターゲット アプリケーションを新規に作成します。

8. Web アプリケーション プール アカウントを、管理者とメンバーの両方に設定します。アプリケーション プールでは、ArcGIS Maps for SharePoint サイト コレクションが起動された SharePoint Web アプリケーションを所有する Web アプリケーションが実行されます。

Secure Store のターゲット アプリケーションを新規に作成します。

ターゲット アプリケーションの管理者
ターゲット アプリケーションの管理者を管理するユーザまたはユーザグループです。チーム管理権限は設定された権限が適用されます。

メンバー
このターゲット アプリケーションに追加または削除権限をマップしているユーザーのグループです。

新しいアプリケーションを作成し、既知のアプリケーションを使用して【資格情報の設定】ボタンを使用して、資格情報マッピングを追加できます。このアプリケーションの設定は、【ターゲット アプリケーションの管理】ページで編集できます。

OK キャンセル

注意: SharePoint サイト コレクション管理者ではなく、Web アプリケーション プールの ID ユーザーをメンバー グループに追加してください。追加しなければ、アクセス拒否エラーを受信する場合があります。

9. **[OK]** をクリックして、ターゲット アプリケーションの作成を完了します。
10. 作成したターゲット アプリケーションを選択し、アプリケーションの [サーバーの全体管理] リボンの **[設定]** をクリックして、ArcGIS Maps for SharePoint の暗号化キーを設定します。
11. **[認証情報の設定]** ウィンドウの **[暗号化キー]** フィールドに値を入力し、確認のために再入力します。このキーを記憶する必要はありません。

Secure Store のターゲット アプリケーション (グループ) の資格情報の設定

警告: このページは暗号化されていません。ユーザー名、パスワード、およびその他の情報はクリア テキストで送信されます。詳細については、管理者に問い合わせください。

ターゲット アプリケーション名: arcgismapsforsharepoint
ターゲット アプリケーション ID: arcgismapsforsharepoint
資格情報の所有者: M4SP_SP_Pool

名前	値
ekey	
ekey の確認	

メモ: 資格情報はいつか設定されると、管理者が取得することはできません。この資格情報の所有者の既存の資格情報はすべて上書きされます。

OK キャンセル

12. **[OK]** をクリックして終了します。

Secure Store Service の使用

インストール時に **[Secure Store Service を使用する]** を選択した場合、ArcGIS Maps の **[アプリの構成]** ページに、インストール時に自動作成されたターゲット アプリケーション ID (arcgismapsforsharepoint) が表示されます。暗号化キーはこのターゲット アプリケーションに保存されるため、手動で作成する必要はありません。関連するサイト コレクションはすべてこのキーを使用して、ArcGIS または ArcGIS Online でホストされるコンテンツのアクセスに使用される ArcGIS Enterprise の認証情報をセキュリティ保護します。

ArcGIS Maps アプリの構成

警告: このページは、安全な通信ができるよう暗号化されていません。すべての情報は、クリア テキストで送信されます。詳細については、管理者にお問い合わせください。

暗号化キー
このサイト コレクションの ArcGIS ログイン認証情報を保護します。

Secure Store Service (SSS) を利用して認証情報を暗号化します。

ターゲット アプリケーション *


arcgismapsforsharepoint 

独自の暗号化キーの生成

- デフォルトでは、ID "arcgismapsforsharepoint" を持つターゲット アプリケーションが ArcGIS Maps for SharePoint によって自動的に作成されます。SharePoint ファーム管理者が異なるターゲット アプリケーション ID を手動で生成している場合は、その ID を **[ターゲット アプリケーション]** フィールドに入力して **[接続テスト]** をクリックします。フィールドの横にある緑色のチェック マークは、接続が有効であることを示します。

ターゲット アプリケーションが見つからない場合、赤色の X とエラー メッセージが表示されます。SharePoint ファーム管理者にターゲット アプリケーション ID を確認してから、もう一度やり直してください。

- 接続が有効な場合は、**[設定]** をクリックして、ターゲット アプリケーション内に保存された暗号化キーの使用を開始します。

 **注意:** セキュリティ侵害が発生した場合、SharePoint ファーム管理者はサーバーの全体管理アプリケーションを使用して、ターゲット アプリケーションに保存された暗号化キーをリセットできます。これにより、ターゲット アプリケーションでセキュリティ保護されていた既存の ArcGIS の認証情報がすべて無効になり、すべてのサイト管理者は各自のサイト コレクションについて ArcGIS の認証情報を再構成する必要があります。

暗号化キーの手動生成

インストール時に **[Secure Store Service を使用しない]** を選択した場合、このサイト コレクションの暗号化キーを手動で生成する必要があります。この暗号化キーはサイト コレクションに保存されるため、SSS を使用する場合ほどセキュアではありません。SSS が使用できない場合のみ、このオプションを使用する必要があります。

- [設定]** ページの **[暗号化キー]** セクションにある **[独自の暗号化キーの生成]** ラジオ ボタンをクリックします。

ArcGIS Maps アプリの構成

警告: このページは、安全な通信ができるよう暗号化されていません。すべての情報は、クリア テキストで送信されます。詳細については、管理者にお問い合わせください。

暗号化キー
このサイト コレクションの ArcGIS ログイン認証情報を保護します。

Secure Store Service (SSS) を利用して認証情報を暗号化します。

独自の暗号化キーの生成

入力したパスフレーズに基づいて、暗号化キーが生成されます。パスフレーズは保存されませんので、安全な場所に記録しておいてください。

パスフレーズ *

パスフレーズの再入力 *

- [パスフレーズ]** フィールドにパスフレーズを入力します。パスフレーズは、数字 1 文字、および大文字 1 文字を含む少なくとも 6 文字を使用する必要があります (例: passWord1)。
重要: 暗号化キーの生成に使用されるパスフレーズ、および ArcGIS アカウントのユーザー名とパスワードではともに、大文字と小文字が区別されます。
- 確認のためにパスフレーズを再入力します。
- [キーの作成]** をクリックします。


暗号化キーが正常に作成されたことを示すメッセージが表示されます。

5. 新しいキーを生成するには、**[キーの更新]** をクリックします。
6. 前回入力したパスフレーズを入力して、**[更新]** をクリックします。
新しいキーを使用して、暗号化認証情報が再び暗号化され、古いキーが破棄されます。
7. 異なるパスフレーズを使用して新しいキーを生成するには、**[新しいキー]** をクリックして、このワークフローの冒頭で概説したステップに従います。

暗号化キーの生成後、残りのアプリ構成設定を安全に設定できます。

ArcGIS 接続 URL の設定

1. **[ArcGIS または Portal for ArcGIS の URL]** フィールドに、ArcGIS Online 組織サイトまたは ArcGIS Enterprise インスタンスの URL を入力します
2. ArcGIS Online に直接接続している (つまり、インスタンスにサブドメインがない) 場合、デフォルト設定である <http://www.arcgis.com> のままにします。

 **注意:** SSL でセキュリティ保護されたサイトで動作するように ArcGIS Maps for SharePoint を構成するには、**ArcGISConnection** の URL を HTTP から HTTPS に変更します。

社内ネットワークがファイアウォールの内側にある場合など、オフライン環境で作業している場合は、使用する ArcGIS Enterprise インスタンスを指すようにこの値を設定します。例: <https://<ポータル名><インスタンス>>

3. **[接続テスト]** をクリックします。
フィールドの横にある緑色のチェック マークは、接続が有効であることを示します。
URL が見つからない場合、赤色の X とエラー メッセージが表示されます。URL を確認してから、もう一度やり直してください。
4. 接続が有効な場合は、**[設定]** をクリックして URL を確認します。


ArcGIS の認証情報の設定

ArcGIS Maps for SharePoint では、ArcGIS の単一の指定ユーザー アカウントを使用して ArcGIS Online または ArcGIS Enterprise の アプリ アイテムが作成されます。この アプリ アイテムは、アプリ トークンの生成に使用されます。アプリ トークンは、ArcGIS Maps Locate ワークフローの実行、および ArcGIS Maps for SharePoint ワークフロー (場所検索 および Connect) と ArcGIS Location フィールドで消費されたクレジットの課金に使用されます。また、このアカウントを使用して、ゲスト アクセスでの制限付き使用も可能になります。

アプリ アイテムは ArcGIS Online または ArcGIS Enterprise で保護されます。

1. **[ArcGIS 認証情報]** セクションの **[設定]** をクリックします。
2. **[アプリの構成]** の見出しの下にある **[認証情報の設定]** をクリックします。
3. ArcGIS の指定ユーザー アカウントのユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名とパスワードは両方とも、大文字と小文字が区別されます。
4. **[OK]** をクリックします。
[アプリの構成] ウィンドウに、現在指定されているユーザー アカウントが表示されます。
5. ArcGIS の認証情報を変更して異なるアカウントを使用するには、**[削除]** をクリックします。
ArcGIS のサイン イン ウィンドウが開きます。
6. 当初のアカウントの設定時に使用した認証情報を使用してサイン インし、**[サイン イン]** をクリックします。
保存された ArcGIS が削除され、アプリ アイテムが ArcGIS Maps の構成から削除されます。
7. **[設定]** をクリックして、ArcGIS の新しい指定ユーザー アカウントを指定します。
8. デフォルトでゲスト アクセスを有効にするには、**[既定のセッション開始アカウントとして、ゲストを使用する]** チェックボックスをオンにします。
このチェックボックスがオフの場合、ArcGIS にサイン インするか、ゲストとして続行するかの選択肢を提示するメッセージがマップ上に表示されます。このチェックボックスがオンの場合、ユーザーは自動的にゲストとしてマップにアクセスします。ゲストはいつでもマップ タイトル バーの上にある **[サイン イン]** をクリックして、各自の指定ユーザー アカウントでサイン インできます。

ゲスト ユーザーには ArcGIS Maps Web パーツへの制限付きアクセスが付与されます。ゲスト ユーザーは、SharePoint コンテンツ、およびマップに追加されたパブリック共有 ArcGIS コンテンツを表示する他に、マップの移動とズーム、レイヤーのオンとオフ、ポップアップの表示が可能です。ただし、ほとんどの機能は表示のみに制限されます。すべての機能を活用してマップを操作するには、指定ユーザー アカウントを使用して ArcGIS にサイン インする必要があります。

 **注意:** SharePoint のページへのマップの追加、それらのマップへの ArcGIS のレイヤーの追加、SharePoint のリストの空間対応化、マップおよびレイヤーへの空間対応レイヤーの追加、スタイル設定オプションの変更など、ArcGIS クレジットを消費するマップ作成のタスクおよび活動はすべて、指定ユーザー アカウントを使用する必要があります。

Esri User Experience Improvement のオプションの設定

必要に応じて、Esri User Experience Improvement (EUEI) プログラムに参加します。このチェックボックスをオンにすると、システムの匿名情報と ArcGIS Maps for SharePoint の使用状況が提供されます。プログラムに参加しない場合は、チェックボックスをオフにします。詳細については、「[Esri User Experience Improvement](#)」をご参照ください。

アプリの構成のトラブルシューティング

- Internet Explorer を使用していて [サイン イン] ウィンドウが空白の状態が表示された場合は、次の操作を実行します。
 - Internet Explorer の [インターネット オプション] ダイアログ ボックスで、[セキュリティ] タブをクリックして、[信頼済みサイト] を選択します。
 - [保護モードを有効にする] をオンにします。
 - [サイト] ボタンをクリックして、https://*.arcgis.com またはお使いの ArcGIS Enterprise のポータル アドレスを追加します。
 - Internet Explorer を再起動します。
- ArcGIS Enterprise を SAML で構成している場合、組み込みユーザーを使用して [アプリの構成] にサイン インし、認証情報を変更してから、SAML のユーザー名とパスワードを使用してサイン インする必要があります。
- IWA、PKI、LDAP が設定されたポータルの認証情報を使用して、SharePoint 2010 で [アプリの構成] の認証情報を設定するときには、Firefox または Chrome を使用してください。Firefox を使用する場合、まずポータル自体に移動し、このポータルを信頼するように例外が追加されていることを確認します。
- 「マスター キーを取得できません。」というメッセージが表示された場合、次の手順に従って、SharePoint Secure Store Service 内でキーを生成します。
 - [サーバーの全体管理] ホーム ページの [アプリケーション構成の管理] セクションで、[サービス アプリケーションの管理] をクリックします。
 - [Secure Store Service] リンクをクリックします。
 - [新しいキーの生成] をクリックします。

エンタープライズ ログインの構成

ArcGIS 組織サイトのサブドメインを指定して、SharePoint サイト コレクションでエンタープライズ ログインを有効化することができます。エンタープライズ ログインを構成すると、組織サイトのメンバーはほかのエンタープライズの情報システムにアクセスするときに使用する認証情報で ArcGIS Maps for SharePoint にサイン インすることが可能になります。エンタープライズ ログインを設定するメリットは、メンバーが ArcGIS システム内で追加のログイン アカウントを作成しなくても済むことです。その代わりとして、エンタープライズ システム内で設定済みのログイン アカウントを使用できます。

前提条件:

[ArcGIS Maps for SharePoint の管理] メニューにアクセスしてアプリを構成するには、SharePoint サイト コレクションの管理者である必要があります。

エンタープライズ ログインを構成するには、次の手順に従います。

1. サイトの **[サイトの設定]** ページに移動します。
2. **[ArcGIS Maps for SharePoint の管理]** の見出しの下にある **[アプリの構成]** をクリックします。
ArcGIS Maps for SharePoint の構成ページが表示されます。
3. ArcGIS Enterprise ポータル インスタンスまたは ArcGIS Online 組織サイトのサブドメインをポイントするように **[ArcGIS または Portal for ArcGIS の URL]** フィールドの値を編集します。
例: `https://<mysubdomain>.maps.arcgis.com`
これで、エンタープライズ ログインの構成は完了です。
4. エンタープライズ ログインを無効化して、デフォルトの ArcGIS サイン イン方法に戻すには、**[ArcGIS または Portal for ArcGIS の URL]** を `https://www.arcgis.com` にリセットします。

よくあるご質問 (FAQ)

- [ArcGIS Maps for SharePoint のライセンス要件は何ですか？](#)
- [ArcGIS Maps Locate ワークフローの実行中に、\[位置情報を含む列の選択\] ページにフィールドが表示されません。](#)
- [ArcGIS Enterpriseとカスタム ジオコーダーを使用中に、ArcGIS Maps Locate ワークフローが正常に完了しません。](#)
- [Esri ジオエンリッチメント サービスはどのようにすれば利用できますか？](#)
- [ファイアウォールで保護された環境のサービスへ接続するにはどうすればよいですか？](#)
- [ArcGIS Maps for SharePoint がプロパティを構成リストに格納するのはなぜですか？](#)
- [ArcGIS Maps for SharePoint を含む Web アプリケーション内に新しいサイト コレクションを作成しましたが、コンポーネントと構成リストを使用できません。](#)
- [緯度/経度データを含む既存のリストを使用できますか？](#)
- [ArcGIS Maps for SharePoint で使用するために Excel スプレッドシートをインポートするにはどうしたらよいですか？](#)
- [エラー メッセージ: お使いのブラウザー構成は、セキュリティで保護されたコンテンツの送信をサポートしていません。パスワードの安全を確保するためにサイン インはキャンセルされました。](#)
- [SharePoint 2010 で、次のいずれかのメッセージが表示されます。無効な ArcGIS Portal の URL が入力されました。URL を確認してください。認証サービスにアクセスできません。ワークフローが失敗しました。使用されていた接続接続が閉じられました。セキュリティで保護された SSL/TLS チャンネルで信頼関係を構築できませんでした。ワークフローが失敗しました。トークンのリクエストの生成に失敗しました。System.Exception: トークンのリクエストの生成に失敗しました。](#)
- [SharePoint サイトにサイン インしていないユーザーが ArcGIS Maps Web パーツを含むページを表示しようとすると、403 \(禁止\) エラーが表示されます。](#)
- [エラー メッセージ: ファイルまたはアセンブリ Microsoft.SqlServer.Types, Version=11.0.0.0, Culture=neutral, PublicKeyToken=89845dcd8080cc91、またはその依存関係の 1 つが読み込めませんでした。](#)

ArcGIS Maps for SharePoint のライセンス要件は何ですか？

ArcGIS Maps for SharePoint を使用するには、ArcGIS Online 組織向けプランまたは ArcGIS Enterprise が必要です。ArcGIS にアクセスしてマップを操作するすべてのユーザーに、指定ユーザー ライセンスが必要です。

一方、ユーザーはサイン インせずにゲストとしてマップを表示できます。ゲスト ユーザーには、マップへの制限付きアクセスが付与されます。ゲスト ユーザーは、パブリックに共有された ArcGIS Maps for SharePoint コンテンツおよびパブリックに共有された ArcGIS コンテンツを参照できるほかに、マップの移動とズーム、レイヤーのオンとオフ、ポップアップの表示が可能ですが、ほとんどの機能は参照のみに制限されます。

ArcGIS Maps Locate ワークフローの実行中に、[位置情報を含む列の選択] ページにフィールドが表示されません。

この問題は、Linux サーバー上で Portal for ArcGIS 10.2.1 から 10.4.1 を使用している場合に発生することがあります。この問題が発生した場合は、使用しているジオコーディング サービスがすべてのユーザーと共有されていることを確認します。

ArcGIS Enterpriseとカスタム ジオコーダーを使用中に、ArcGIS Maps Locate ワークフローが正常に完了しません。

ArcGIS Maps Locate ワークフローを Portal for ArcGIS 10.3 から 10.4.1、または ArcGIS Enterprise 10.5 以降で正常に実行するには、ArcGIS Enterprise ドキュメント内の「[ユーティリティ サービスの構成](#)」トピックの「[フェデレーション サーバーからのサービスではなく、認証情報が必要な場合](#)」のセクションに従って、ジオコーダー サービスを構成します。

Esri ジオエンリッチメント サービスはどのようにすれば利用できますか？

Esri [ジオエンリッチメント サービス](#)は、マップ内のフィーチャの人口統計データとコンテキスト データを提供します。ジオエンリッチメントを利用するためには、ArcGIS Online のサブスクリプションを契約するか、ArcGIS Enterprise 環境でジオエンリッチメントが構成されている必要があります。

ファイアウォールで保護された環境のサービスへ接続するにはどうすればよいですか？

「[エンタープライズ ログインの構成](#)」をご参照ください。

ArcGIS Maps for SharePoint がプロパティを構成リストに格納するのはなぜですか？

柔軟性を高め、構成時に容易に使用できるようにするため、ArcGIS Maps for SharePoint の複数のコンポーネントで共有される一部のプロパティは、サイト コレクションおよびサイト レベルのリストに格納されます。プロパティをリストに保存することで、管理者以外のユーザーにプロパティの構成を許可する場合にも、管理者のみに編集許可を与える場合にも対応できるようになります。ArcGIS Maps for SharePoint コンポーネントのユーザーは構成リストの編集権限を必要としません。また、プロパティがリストに保存されていれば、ほとんどの SharePoint ユーザーが使い慣れている直感的なユーザー インターフェイス (UI) を使用できます。

ArcGIS Maps for SharePoint を含む Web アプリケーション内に新しいサイト コレクションを作成しましたが、コンポーネントと構成リストを使用できません。

新しいサイト コレクションを作成したとき、ArcGIS Maps for SharePoint は自動的に有効になりません。サイト コレクションを新規作成した場合、**[サイトの設定]** ページを参照し、**[サイト コレクションの機能]** をクリックして ArcGIS Maps for SharePoint の機能をアクティブにします。これにより、ArcGIS Maps for SharePoint に備わっているすべての機能を新しいサイト コレクションで使用できます。

緯度/経度データを含む既存のリストを使用できますか？

SharePoint のリストは、各アイテムの位置を経度と緯度として格納する列を含むことができます。それらのリストを ArcGIS Maps Web パーツで表示するためにジオコーディングするには、リストに ArcGIS Location フィールドを追加し、位置フィールドのプロパティの設定時に緯度/経度フィールドを指定します。

ArcGIS Maps for SharePoint で使用するために Excel スプレッドシートをインポートするにはどうしたらよいですか？

Excel スプレッドシートを SharePoint にインポートする方法については、「[SharePoint データの準備](#)」をご参照ください。

エラー メッセージ: お使いのブラウザー構成は、セキュリティで保護されたコンテンツの送信をサポートしていません。パスワードの安全を確保するためにサイン インはキャンセルされました。


これは、旧バージョンの Internet Explorer (IE8) を使用して、HTTP 経由でホストされたプロキシ ページにアクセスすると発生します (ArcGIS Maps for SharePoint を使用するときも同様)。ArcGIS Maps for SharePoint が提供する **AllowSignInOverHttpProxy** の構成設定はデフォルトで **False** に設定されています。この設定は、ユーザーのパスワードが、HTTPS ではなく、安全ではない HTTP 経由で送信されることを防ぎます。パスワードを HTTPS ではなく HTTP 経由で送信して問題ない場合は、この設定を **True** に変更してかまいません。このページにアクセスするには、ブラウザーの [アドレス] フィールドに次の URL を入力します。<サイト コレクションのルート >/lists/esri maps configuration settings

SharePoint 2010 で、次のいずれかのメッセージが表示されます。

- 無効な ArcGIS Portal の URL が入力されました。URL を確認してください。
- 認証サービスにアクセスできません。
- ワークフローが失敗しました。使用されていた接続接続が閉じられました。セキュリティで保護された SSL/TLS チャンネルで信頼関係を構築できませんでした。
- ワークフローが失敗しました。トークンのリクエストの生成に失敗しました。System.Exception: トークンのリクエストの生成に失敗しました。

このエラー メッセージは、SharePoint 2010 に固有であり、SharePoint での証明書エラーの結果として発生します。このエラー メッセージを解決するには、以下の手順に従って証明書をダウンロードし、SharePoint サーバーに追加します。

証明書のダウンロード

 **注意:** 証明書をコピーするには、権限の昇格 (管理者として実行) が必要になることがあります。

1. <https://www.arcgis.com> (またはご使用のポータル) に移動します。必ず **https** を使用します。
2. URL アドレス バーで、**[セキュリティ報告]** アイコン (南京錠) をクリックします。
3. 表示された **[Web サイトの認証]** ダイアログ ボックスの **[証明書の表示]** をクリックします。
4. **[証明書]** ウィンドウの **[証明のパス]** タブをクリックします。
5. **[DigiCert]** を選択し、**[証明書の表示]** をクリックします。
重要: サブエントリのいずれかではなく、必ずルート証明書 (DigiCert) を選択してください。パッケージのコンテンツ全体が必要です。
6. **[証明書]** ウィンドウの **[詳細]** タブをクリックします。
7. **[ファイルにコピー]** をクリックして **[証明書のエクスポート ウィザード]** を開始します。
8. **[証明書のエクスポート ウィザード]** の最初のページで、**[次へ]** をクリックします。
9. **[Base-64 encoded X.509 (.CER)]** オプションを選択し、**[次へ]** をクリックします。
10. ディスク上の既知の場所にファイルを保存して、**[証明書のエクスポート ウィザード]** の **[次へ]** をクリックします。
11. **[完了]** をクリックします。エクスポートが成功したことを示すメッセージが表示されます。

SharePoint への証明書のインポート

1. 昇格された権限 (管理者として実行) を使用して、ブラウザーで SharePoint サーバーの全体管理を開きます。
2. **[セキュリティ]** をクリックし、**[一般的なセキュリティ]** という見出しの **[信頼関係の管理]** をクリックします。


3. **[新規作成]** をクリックして名前を指定し、前の手順で保存したルート証明書を参照します。

 **注意:** 既存のローカルの証明書は削除しないでください。

4. **[OK]** をクリックします。これで、SharePoint サーバー インスタンスに証明書が追加されました。

SharePoint サイトにサイン インしていないユーザーが ArcGIS Maps Web パーツを含むページを表示しようとすると、403 (禁止) エラーが表示されます。

サイン インが不要なパブリックのサイト コレクションを所有し、そのサイト コレクション内のページに ArcGIS Maps Web パーツが含まれている場合、ユーザーからのマップ表示を可能にするには、SharePoint サイトへの匿名アクセスを有効にし、ArcGIS Maps のゲストアクセスを有効にする必要があります。

 **ヒント:** ベスト プラクティスとして、パブリックのサイト コレクションに専用の SharePoint Web アプリケーションを使用することをお勧めします。

SharePoint サイト コレクションへの匿名アクセスを有効にするには、次の手順に従います。

- Web アプリケーション レベルで SharePoint の匿名アクセスを有効にします。
- サイト コレクション レベルで SharePoint の匿名アクセスを有効にします。

Web アプリケーション レベルで SharePoint の匿名アクセスの有効化

以下のタスクを実行するには、SharePoint ファーム管理者の権限が必要です。

1. [SharePoint の全体管理] の [アプリケーション構成の管理] で、**[Web アプリケーションの管理]** をクリックします。**[Web アプリケーション]** ページが開き、使用可能なアプリケーションがリスト表示されます。
2. リスト内にある、匿名アクセスを有効にする Web アプリケーションをクリックし、リボンの **[認証プロバイダー]** をクリックします。ウィンドウが開き、ゾーンごとに使用可能な認証プロバイダーが表示されます。基本シナリオでは、デフォルトのゾーンのみがリスト表示されます。
3. **[デフォルト]** をクリックします。**[認証の編集]** ウィンドウが開きます。
4. **[匿名アクセスを有効にする]** チェックボックスをオンにし、**[リモート インターフェイスの使用権限を要求する]** チェックボックスがオンの場合はオフにします。
5. ウィンドウの下部にスクロールして、**[保存]** をクリックします。**[認証の編集]** ウィンドウを閉じて、[SharePoint の全体管理] を終了します。
6. 昇格された権限 (管理者として実行) を使用して、ブラウザで SharePoint の管理シェルを開きます。
7. ArcGIS Maps Web パーツへの SharePoint の追加をユーザーに許可するには、以下のスクリプトの山括弧で囲まれた値を Web アプリケーションの URL に置き換えてから、スクリプトを実行します。

```
$webapp = Get-SPWebApplication <"http://myWebApplication">
$webapp.ClientCallableSettings.AnonymousRestrictedTypes.Remove ([microsoft.sharepoint.spweb], "GetSebwebsForCurrentUser")
$webapp.ClientCallableSettings.AnonymousRestrictedTypes.Remove ([microsoft.sharepoint.splist], "GetItems")
$webapp.ClientCallableSettings.AnonymousRestrictedTypes.Remove ([microsoft.sharepoint.splist], "GetChanges")
$webapp.Update ()
```

サイト コレクション レベルでの SharePoint の匿名アクセスの有効化

以下のタスクを実行するには、SharePoint サイト コレクション管理者の権限が必要です。

1. 構成した Web アプリケーションの下に作成したサイト コレクションのいずれかに移動し、**[サイト設定]** ページを開きます。
- 2.
3. [ユーザーと権限] セクションの **[サイトの権限]** をクリックします。
4. リボンの **[匿名アクセス]** をクリックします。**[匿名アクセス]** 構成ウィンドウが表示されます。
5. **[匿名ユーザーがアクセス可能]** オプションの **[Web サイト全体]** を選択します。
6. **[リモート インターフェイスの使用] 権限を必須にする** チェックボックスをオンにして、**[OK]** をクリックします。サイトの権限リストに **[匿名ユーザー]** という名前の新しいグループが表示されます。これらの構成の完了後、SharePoint および ArcGIS の両方で不明の匿名ユーザーは ArcGIS Maps を表示できるようになります。

エラー メッセージ: ファイルまたはアセンブリ Microsoft.SqlServer.Types, Version=11.0.0.0, Culture=neutral, PublicKeyToken=89845dcd8080cc91、またはその依存関係の 1 つが読み込めませんでした。

ワークフローを実行して外部データに接続するとき、「Could not load file or assembly Microsoft.SqlServer.Types, Version=11.0.0.0,

Culture=neutral, PublicKeyToken=89845dcd8080cc91, or one of its dependencies. (ファイルまたはアセンブリ Microsoft.SqlServer.Types, Version=11.0.0.0, Culture=neutral, PublicKeyToken=89845dcd8080cc91、またはその依存関係の 1 つが読み込めませんでした。)」というエラーメッセージが表示される場合があります。このエラーメッセージは、Microsoft.SqlServer.Types アセンブリのバージョン 11 を提供しないことがある SQL Server 2008 を備えたシステムで発生します。このエラーメッセージは、SharePoint 2010 でのみ発生します。次の手順に従い、Microsoft.SqlServer.Types アセンブリのバージョン 11 を SharePoint サーバー コンピューターの GAC (Global Assembly Cache) にインストールしてください。

1. <http://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=35580> から Microsoft SQL Server 2012 SP1 Feature Pack をダウンロードします。
2. ダウンロードを選択するように求められたら、サーバーが 32 ビット (x86) または 64 ビット (x64) のどちらであるかに応じて、ENU\x86\SQLSysClrTypes.msi または ENU\x64\SQLSysClrTypes.msi を選択します。
3. サーバー コンピューターにファイルを保存してから、ファイルを実行します。
4. IIS を再起動します。

Esri User Experience Improvement プログラム

Esri では、継続的に製品の改善に取り組んでいます。改善点を見つけるのに最適な方法の 1 つは、お客様からフィードバックを頂くことです。Esri User Experience Improvement プログラム (EUEI) に参加すると、ArcGIS Maps for SharePoint の設計と開発に対するフィードバックを提供できます。このプログラムは、お客様の作業を妨げずに、コンピューターのハードウェアと ArcGIS Maps for SharePoint の使用状況に関する情報を収集します。プログラムへの参加は完全に任意かつ匿名です。お客様の特定や連絡に使用できる情報は収集されません。

次の質問と答えによって、プログラムの詳細情報を説明します。

- [EUEI プログラムに参加すると、何が起こりますか？](#)
- [収集されるデータの種類](#)
- [Esri はシステム上にあるその他のソフトウェアに関する情報を収集しますか？](#)
- [プログラムから脱退することはできますか？](#)
- [プログラムに関して Esri から連絡がありますか？](#)
- [生成されるレポートのサイズ](#)
- [プログラムに参加する場合、プライバシーはどのように保護されますか？](#)

EUEI プログラムに参加すると、何が起こりますか？

Esri がお客様のコンピューターと ArcGIS Maps for SharePoint の使用状況に関する情報を収集します。この情報はエンコードされたファイルに保存され、お客様の作業中に Esri に適宜送信されます。収集と送信は操作の妨げにならないように行われ、ソフトウェアの使用に影響はありません。

収集されるデータの種類

データとしては、オペレーティング システムのバージョンなどのハードウェア情報、グラフィックス カードの情報、使用しているコマンドとツール、アプリケーションの使用時間、エラー レポート情報などが挙げられます。EUEI プログラムは、IP アドレスやログイン情報など、お客様や組織に関連する個人情報や、お客様が使用しているデータの詳細は収集しません。

Esri はシステム上にあるその他のソフトウェアに関する情報を収集しますか？

いいえ。このプログラムは、ArcGIS Maps for SharePoint の外部の情報は基本的に収集しません。ただし、ArcGIS を拡張するサードパーティのソフトウェアから一般情報を収集する可能性はあります。

プログラムから脱退することはできますか？

はい。[ArcGIS Maps アプリの構成] ウィンドウのオプションを変更することで、いつでも参加または脱退ができます。詳細については、「[Esri User Experience Improvement の設定の変更](#)」をご参照ください。

プログラムに関して Esri から連絡がありますか？

いいえ。EUEI プログラムは、個人ユーザーを特定できる個人情報や連絡情報を収集しません。このプログラムは完全に匿名です。

生成されるレポートのサイズ

EUEI プログラムのレポートは一般に小さく、平均で数メガバイト以下です。

プログラムに参加する場合、プライバシーはどのように保護されますか？

Esri はお客様のプライバシーを尊重し、お客様やシステムに関する個人情報は収集しません。データを適切に集約および優先順位付けするために、プログラムは GUID (グローバル一意識別子) を作成し、コンピューターに保存します。この ID を使用することで、フィードバックを提供する 100 人のユーザーやフィードバックを 100 回提供する 1 人のユーザーをプログラムで区別できます。GUID はランダムに生成される番号で、お客様の特定には使用されません。

詳細については、[Esri プライバシー ポリシー](#)をご参照ください。

Copyright information

Copyright © 1995-2017 Esri

All rights reserved

Published in the United States of America.

US GOVERNMENT CUSTOMER

The Products are commercial items, developed at private expense, provided to Customer under this Agreement. If Customer is a US government entity or US government contractor, Esri licenses or provides subscriptions to Customer in accordance with this Agreement under FAR Subparts 12.211/12.212 or DFARS Subpart 227.7202. Esri Data and Online Services are licensed or subscribed under the same DFARS Subpart 227.7202 policy as commercial computer software for acquisitions made under DFARS. Products are subject to restrictions, and this Agreement strictly governs Customer's use, modification, performance, reproduction, release, display, or disclosure of Products. Agreement provisions that are inconsistent with federal law regulation will not apply. A US government Customer may transfer Software to any of its facilities to which it transfers the computer(s) on which it has installed such Software. If any court, arbitrator, or board holds that a US government Customer has greater rights to any portion of the Products under applicable public procurement law, such rights will extend only to the portions affected.

Esri Trademarks

@esri.com, 3D Analyst, Address Coder, ArcAtlas, ArcCAD, ArcCatalog, ArcCOGO, ArcData, ArcDoc, ArcEdit, ArcEditor, ArcEurope, ArcExplorer, ArcExpress, ArcGIS, ArcGlobe, ArcGrid, ArcIMS, ARC/INFO, ArcInfo, ArcInfo Librarian, ArcLessons, ArcLocation, ArcLogistics, ArcMap, ArcNetwork, ArcNews, ArcObjects, ArcOpen, ArcPad, ArcPlot, ArcPress, ArcPy, ArcReader, ArcScan, ArcScene, ArcSchool, ArcScripts, ArcSDE, ArcSdl, ArcSketch, ArcStorm, ArcSurvey, ArcTIN, ArcToolbox, ArcTools, ArcUSA, ArcUser, ArcView, ArcVoyager, ArcWatch, ArcWeb, ArcWorld, ArcXML, AtlasGIS, AtlasWare, Avenue, BAO, Business Analyst, Business Analyst Online, BusinessMAP, CityEngine, CommunityInfo, Database Integrator, DBI Kit, Drone2Map, EDN, Esri, Esri-Team GIS, Esri-The GIS Company, Esri-The GIS People, Esri-The GIS Software Leader, FormEdit, GeoCollector, Geographic Design System, Geography Matters, Geography Network, GIS by Esri, GIS Day, GIS for Everyone, GISData Server, JTX, Maplex, MapObjects, MapStudio, ModelBuilder, MOLE, MPS-Atlas, PLTS, Rent-a-Tech, SDE, SML, Sourcebook America, SpatialLABS, Spatial Database Engine, StreetMap, Tapestry, The Science of Where, the ARC/INFO logo, the ArcGIS Explorer logo, the Esri globe logo, the Esri Press logo, the GIS Day logo, Water Writes, www.arcgis.com, www.esri.com, www.gisday.com, are trademarks, service marks, or registered marks in the United States, the European Community, or certain other jurisdictions. CityEngine is a registered trademark of Procedural AG and is distributed under license by Esri.

Other companies and products or services mentioned herein may be trademarks, service marks or registered marks of their respective mark owners.

You may have received Products or Services that include Graph Editor Toolkit, Copyright © 1992-1999 Tom Sawyer Software, Berkeley, California, All Rights Reserved and Tom Sawyer Visualization Ver. 8.0 Copyright © 1992-2009 Tom Sawyer Software, Berkeley, California, All Rights Reserved.